

第一章 行軍ノ目的計畫

第一、行軍ノ目的

行軍ノ目的ハ雪中青森ヨリ田代ヲ經テ三本木平野ニ進出シ得ルヤ否
ヤヲ判斷スル爲メ田代ニ向テ一泊行軍ヲ行ヒ若シ進出シ得ルトセバ
戰時編成歩兵一大隊ヲ以テ青森屯營ヨリ三本木ニ至ル行軍計畫並ニ
大小行李特別編成案ヲ立ツルニアリ

第二、豫行々軍

田代行軍實施ノ難易ヲ試ミル爲メ一月十八日神成大尉ノ指揮下ニ一
中隊ヲ編成シ田代街道上小峠ニ向テ終日行軍ヲ行フ此行軍ハ二十名
ヨリ成ル寒地着隊ヲ先頭トシ量目約三十貫匁ノ物ヲ積ミタル檜一臺
ヲ後尾ニ曳カシメ午前七時卅分屯營出發同十一時卅分小峠丘麓ニ達
シ午後二時過歸營ス屯營小峠間里程約貳里強往路ニハ四時間歸路ニ

五

0481

六
ハ二時間ヲ費ヤシ全ク人跡ナキ部分ノ行進ニハ壹里ニ二時間ヲ要セ
リ而シテ橋ヲ運搬具ニ使用スル亦甚々困難ニアラサルヲ認メタリ
途中田茂木野ノ土民ニ就キ田代ニハ小屋四五軒住民一家族アリ時々
獵夫炭焼男ノミ往來スルヲ聞知セリ此日天氣晴朗ニシテ積雪三尺
乃至五尺表面稍堅硬ニシテ良好ノ景況ナリキ

第三 大隊長ノ判斷

屯營三本木間ハ里程約十三里ニシテ夏秋ノ候ニ於テ小部隊ヲ以テ一
日ニ通過セシ前例多シ然レモ之ヲ雪中ニ通過センニハ少ナクモ屯營
田代間(五里強)田代増澤間(四里強)増澤三本木間(三里)ノ三日行程ニ區分
セザル可カラズ而シテ屯營田代間ノ行軍ヲ全フスルヲ得バ他ハ之ニ
因テ推知スルニ足ル
然ルニ豫行々軍ノ經驗ニヨレバ屯營田代間ノ行軍ヲ一日ニ要求スル
ハ出來難キコニアラズ若シ途中不慮ノ障礙ヲ受ケ田代ニ達スル能ハ

サルルハ途中ニ露營ヲ爲スベキノミ
右ノ判斷ニヨリ廿三日ヨリ行軍ヲ實施スルニ決セリ
聯隊長ハ大隊長ヲ採リタル行軍ノ目的ト判斷トヲ承認シ山口少佐ハ
教育委員主座ナルヲ以テ特ニ第三年度長期伍長ヲ行軍ニ隨從セシメ
タリ

大隊長ハ神成大尉ニ主任中隊長ヲ命シ細部ノ計畫ヲ立テ專ラ實施研
究ノ銜ニ當ラシメタリ

第四、行軍ニ關スル命令

大隊長ハ二十一日行軍ニ關シ左ノ命令ヲ與ヘタリ
明後二十三日ヨリ大隊古兵ヲ以テ田代ニ向ヒ一泊行軍ヲ行フ依テ
諸事左ノ通り心得ベシ
一、行軍參列者ヲ左ノ通り定ム

大隊本部

軍醫 看護長 炊事掛軍曹 各一

各中隊

將校 准士官及見習士官(新兵掛及特別任務ヲ有スル掛モノヲ除ク)

下士以下四十名乃至四十五名(諸當番ヲ含掛及聯隊)

二、部隊ノ編成ハ四小隊ヨリ成ル一中隊ニシテ其主ナル幹部ハ左ノ如シ

但シ小隊長ハ列外者ヲ以テ交代スルコトアルベシ

中隊長 神成大尉

伊藤中尉

小隊長

大橋中尉

水野中尉

鈴木少尉

右ノ外中野中尉ノ指揮下ニ聯隊長期伍長ヲ以テ特別小隊ヲ編

成ス

三、二十三日午前六時三十分第五中隊舎前ニ整列スベシ

服裝並携帶品左ノ如シ

略装ニシテ防寒外套ヲ着用シ藁靴ヲ穿テ下士以下飯盒雜糞及水筒ヲ携ヘ一般午食及糲三食分餅六個ヅ、携行スベシ

其他背囊入組品ハ隨意トス

四、輸送員トシテ各小隊(特別小隊ヲ除ク)ヨリ兵卒十四名ヲ當日午前
五時三十分マデニ炊事掛軍曹ノ許ニ差出スベシ其服裝ハ背囊ヲ
除キ普通外套ヲ肩ニ掛ク

五、右ノ外實施ニ關スル細事ハ凡テ神成大尉ノ指示ヲ受クベシ

第五、大隊長ノ與ヘタル注意

二十二日午後大隊長ハ中隊長ヲ集メテ左ノ要旨ノ注意ヲ與ヘタリ
今回ノ行軍ハ現在ノ情況ニ於テハ地形上或ハ里程稍遠キノ感アレ

①
元非常ノ障礙ニ遭遇スルコトナクンバ目的地ニ達シ得ルモノト信ズ
而レ元露營ヲナスノ止ムヲ得サルニ至ルコトアランモ保シ難シ之カ
爲メ薪炭ヲモ携行スル筈ナリ將校以下充分防寒ニ願慮シ特ニ薬靴
ノ製作及穿方ニ注意シ途中破損ノ虞ナカラシムベシ成シ得レバ懷
爐ヲ携帶スルモ一法ナラン
衛生上ニ關シテハ軍醫ノ注意ヲ實行スベシ

第六、軍醫ノ呈出シタル衛生上ノ注意

- 一、雪中行軍休止時間ノ長キハ凍傷發生上頗ル危険ナルヲ以テ一回約
三分間ヲ超ヘサルコト
- 一、休止間ハ各兵手指ヲ摩擦シ絶ヘズ足踏ヲ爲シ居ルベキコト
- 一、全身ヲ可成温包シ殊ニ放尿後袴ノ釦ヲ掛クルコトヲ怠ルベカラズ然
ラザレバ陰部ノ凍傷ニ罹ルコトアリ
- 一、空腹ハ凍死ヲ來スノ大原因ニ付喫食後ノ殘飯ハ投棄セサルコト

一、酒ヲ多量ニ飲ムルハ凍傷ニ罹リ易キニヨリ飲酒家モ必ス酒ヲ慎ムベキコト

二、雪中行軍露營ノ時ニハ成ルベク睡眠セサル様注意スベキコト

三、手指鼻趾其他全身諸部ノ寒冷凍結スル際ハ先ツ雪片次ニ布片ニテ

摩擦シ其部赤色ヲ呈スルニアラサレバ火氣ニ暖メ又ハ溫湯ニ入ル

ベカラズ

四、濕潤ハ凍傷ヲ起シ易キヲ以テ手袋靴下等ハ防濕ニ注意シ濕リタル

ハ可成早ク乾燥スルコト

第七、神成大尉ノ計畫

左ニ掲クルハ神成大尉カ大隊長ノ意圖ヲ受ケ細部ノ計畫ヲ立テタル
原稿ニシテ大尉ノ死體ト共ニ發見セラレタリ固ヨリ粗笨ノ覺書ニ止
リ修正改刪ヲ俟ツ所多カルヘシト雖モ多クハ此計畫ニ因テ實施セラ
レタルガ如シ故ニ特ニ原稿ノ儘掲載ス

想 定

二二

八戸平野ニ侵入セル敵ニ對シ陸羽街道ヲ東進スル西軍混成旅團ノ
右側衛(歩兵第五聯隊第二大隊)ハ一月二十二日夜青森屯營ニ宿營ス
此側衛ノ任務ハ田代街道ヲ三本木ニ進出シ我旅團ノ作戰ヲ容易ク
ラシムルニアリ

一、行軍ノ目的

積雪ノ時期ニ於テ田代街道ヲ三本木ニ進出スル其通過ノ難易並行
李運搬法ノ研究

二、出場人員

隊 號	區 分	將校同相當官	准 士	官	下 士	兵	卒	計
大隊本部		二			二			四
第五中隊		二	一		四		四〇	四七
第六中隊		二	一		三		三八	四四

0488

計	第三大隊	第一大隊	第八中隊	第七中隊
一二			四	二
四			一	一
三八	長期 一〇	長期 一二	四	三
一五六			四〇	三八
二二〇	一〇	一二	四九	四四

備考 將校ノ中ニ見習士官二、兵卒ノ内看護手二、第二大隊ノ各中
隊ノ下士中ニ長期伍長含有

三、編 成

中隊長神成大尉

第一小隊長伊藤中尉	第五中隊下士卒
第二小隊長鈴木少尉	第六中隊下士卒
第三小隊長大橋中尉	第七中隊下士卒
第四小隊長水野中尉	第八中隊下士卒

特別小隊 小隊長 中野中尉 長期伍長

備考 中隊ヲ四小隊ニ編成セシハ固有中隊ノ建制ヲ保持センカ爲
メ及寒地着隊交代ノ便宜上ヨリ出デタルナリ

四、行軍序列

寒地着部隊(一小隊)

殘餘ノ小隊

特別小隊

行李

備考 寒地着部隊ハ三十分乃至一時間ヲ以テ循環交代ス

五、宿營地ノ里程及給養豫定

日	割	宿營地	里	程	宿營法	給養法
第一日	田代	約五里半	村落露營	携行糧秣給養		
第二日	増澤附近	約四里半	村落露營	携行糧秣給養		
第三日	三本木	約三里				

備考 第二日以下實施セズ

六、服裝及携帶品

一、略装ニシテ一般防寒用外套手套着用藁靴ヲ穿テ上等兵以下略衣袴着用ノコ

但シ輸送員ハ背囊ヲ除キ普通外套ヲ肩ニ掛クルコ

二、下士以下飯盒、水筒、雜囊、携帶糲一口分背囊ニ容ル、コ

但シ輸送員ハ雜囊ニ容ル、コ

三、一般午食携帶ノコ(飯骨、柳ニ容ル)

四、小食トシテ丸餅二個携帶ノコ(其他ノ四個宛ハ行李ニテ運搬ス)

七、行李編成

種 類	歩兵、一大隊行李編成	雪中行軍人員ニ對スル行李編成
	駄馬編成	橇編成
	橇一人	所用品並橇編成
		人員

備考 小行李ノ豫備棧二、大行李ノ豫備棧二ハ運送員二名ヲ以テ
運搬ス
棧一臺ニ付輸送員四名トス

計	六〇	六〇	二三〇	一四	五六
衛生材料駄馬	一	一	四		
彈藥駄馬	一八	一八	七二		
器具駄馬	二	二	八	一	四
豫備駄馬	一	一			
荷物駄馬	九	九	三六		
炊具駄馬	一〇	一〇	四〇	二	八
糧秣駄馬	一六	二六	六四	一一	四四
豫備蹄鐵駄馬	一	一	四		
豫備駄馬	二	二	二		

0492

炊事掛ヲシテ輸送部隊ヲ指揮セシム
八、携行炊爨具員數表

品目	員數	品目	員數	品目	員數
銅平釜	二	大柄杓	二	ツック雨蓑	五
鐵釜	二	焦起	一	米洗桶	二
飯斗	二	米洗棒	一	湯桶	
米洗箒	六	薪割	二	七島表	四
山刀	五	庖丁	二	火斗	一
雜器袋	一	箒臺	二	爪釣	一
筵	四	擔棒	二	組	二
庖丁差	一	提燈	六	苧繩	一

九、携行スヘキ器具材料並糶秣

精	藥	圓
酒	糲	匙
二〇〇	二〇〇	一〇
鐘詰牛肉	精米	十字鉞
三五	一二六〇	五
漬物	木炭	薪(焚付)
六、〇〇〇	四二、〇〇〇	六〇、〇〇〇

十、研究事項ノ分擔

一、歩兵一大隊三本木迄進出スルモノトシテ行李運搬ノ研究

一、同宿營ノ研究

一、同行進法ノ研究

一、衛兵ノ研究

一、炊爨ノ研究

一、携行スヘキ需用品ノ研究

一、路上測圖

鈴木少尉

水野中尉

大橋中尉

田中見習士官

伊藤中尉

中野中尉

今泉見習士官

0010

0494

一、衛生上ノ研究

兵餉 防寒法 凍傷豫防法 疲勞ノ景況 患者ノ處置

(擔任者不明)

右研究事項ノ分擔ハ出發前日神成大尉ヨリ各官ニ達シタリ携行品ハ概ネ神成大尉計畫書ノ通りニシテ運搬用トシテ棧十四臺踏雪用トシテ寒地着四十ヲ使用セリ

第八、衛生上ノ調査豫定項目

左ニ掲クルハ永井軍醫ノ机中ヨリ得タルモノニシテ軍醫カ衛生上ノ調査計畫ノ一端ヲ窺フニ足ルヲ以テ此ニ掲グ

雪中行軍時衛生上ノ調査豫定項目

一、氣象(天候、氣溫、風力、風向)

二、行程及行進ノ難易積雪ノ深淺及其性狀

三、携帶品目及其負擔量

四、疲勞餓餓口渴ノ度、體重ノ増減

五、被服ト寒氣體溫(發汗)トノ關係

六、耳掩眼鏡ノ必要有無及其効力實驗

七、靴代用品ノ實驗

八、露營地特別攝暖法ノ願慮實驗

九、水筒、米飯ノ防寒携帶法及其内容物ノ凍氷實驗

水筒ニハ酒ヲ加ヘタル水、醋ヲ加ヘタル水、鹽湯、麥湯及湯ヲ入レテ

驗ス

飯盒、飯骨柳、握飯ノ三物ニ付驗シ背囊内ニ入レタルモノト區別比

較ス

(是等ノ試驗ノ爲メ、特ニ兵卒十名ヲ要ス)

十、飲酒ノ多少ト防寒ノ關係

十一、患者ノ景況

三、患者運搬法

右ノ内第三第四第九項ハ出發前實施ノ端緒ヲ開キタルコト明カナリ
第四第五項ニ就テハ行軍第一日ニ於テ呼吸脈搏口渴ノ度及發汗ノ
景況等ヲ検査シタルコト遺物ノ手簿ニ依テ知ルコトヲ得タリ

第二章 行軍實施及遭難ノ景況

第一日 (二月二十三日)

午前六時三十分行軍隊ハ所命ノ如ク集合シ其編成終ルヤ神成大尉ハ
小隊長ヲ集メテ行軍計畫ノ概略ヲ示シ更ニ中隊ニ向テ左ノ命令ヲ口
演ス

命令

一、中隊ハ本日豫定ノ如ク火打山ヲ經テ田代ニ向テ行軍ヲ行フ
二、行軍序列ハ伊藤、鈴木、大橋、水野小隊ニシテ中野特別小隊之ニ次キ行

二二

0497